



2019支部団結学校

寝てもいいって言われたら寝られん！

2019支部団結学校が6月23日(日)、大阪港湾労働者福祉第1センターにて、11分会24名、執行部12名、教宣部7名、講師1名あわせ総勢44名で行われました。

川村教宣副部長の開校あいさつ、趣旨説明のあと、樋口委員長が支部あいさつをしました。

次に講義1の「労働組合の必要性」で、講師の馬場徳夫さん(労働とサポートセンター大阪・理事)から全港湾労働組合の特徴を話され、「全港湾は個人加盟の全国単一の産業別労働組合であること。企業内で一人組合員でも労使関係を有する。港湾産業とか運輸産業で働く労働者が団結して、産業全体の労働条件を向上させる」と話されました。また、「全港湾は一人ひとりの組合員の団結と運動へ参加する大衆路線で成り立つ労働組合である、自分だけ楽をして、運動は人任せでは通らない」と話されて、私もあらためて人任せではいけないと思いました。最後に、講師から「新しく加入された皆さんが全港湾の新しい歴史をつくられることを願います」と、はげめられた新組合員たちもうなずいていました。

講義2の「大阪支部の労働運動と歴史」は、樋口委員長から、「1973年(昭和48年)の住友電工恩貴島運輸闘争は恩貴島運輸(現、此花荷役分会)が全港湾に加入し、会社が企業閉鎖、全員解雇に出たことで、大阪総評を挙げての闘いに発展し、大争議になり勝利した」と説明がありました。



昼食・休憩をとり、午後から新組合員の自己紹介を行いました。その後、講義3の「労働運動・組合活動の紹介」を、吉本執行委員(兼ユニオン大阪・書記長)から、「労働組合の組織力の源泉は、職場を支える組合員にあります。本当の組織力強化は、職場の組合員一人ひとりの団結力によって実現することを忘れてはなりません。労働法を含めた基礎知識の習得は必要ですし、知ってる

だけでは労働条件は変わりません。知識に基づいた運動によってはじめて改善される。また、労働協約は企業と労組が交渉して締結するもので、就業規則より上回る(優先する)」と説明があり、私ももっと学習し、頑張って活動していかなければならないと思いました。

専門部の活動紹介で、共済会から赤保執行委員、全労済からは井筒さんから説明がありました。安全衛生委員会は吉馴書記次長が安全パトロールの実施状況などが話され、青年部は、林青年部長が、青年部のメイン行事である、「沖縄平和行進への参加」や、「海の子学園でのふれあい餅つき」などの活動が紹介されました。

閉校のあいさつを吉馴書記次長がをされ、最後に教宣部日高部員の団結ガンバローで午後3時に団結学校を終了しました。

私は今期より教宣部で副部長を務め、初めての団結学校でした。あらためて、教宣部の活動は機関紙の発行や、団結学校の開催など大阪支部の重要な部門だと感じ、これからも頑張っていきたいと思います。

(執行部 竹山 保彦)

青年部 だより

全国青年対策交流会議

青年部 部長 林 涼史

6月1日(土)~3日(月)の日程で、全国青年対策交流会議に参加しました。

初日、福島県JR常磐線「泉」駅に到着しました。予定より早かったため、会場のホテルまで歩くことにしました。道中、車は走っているのですが、全くと言っていいほど歩いている人に会わない。途中大きな公園があり、寄ってみただけで子供の姿が全くない。偶然?たまたまタイミングが合わなかった?かも知れませんが、原発事故の影響かな?と考えると、恐ろしくなりました。

この後、小名浜ホテルオーシャンゴルフクラブ会議室にて小名浜支部井坂青年部部長が開会あいさつで「7年前に起きた福島原発事故後、今の現状と放射能がある事で何が起きているのかを見て感じて下さい」と話されました。

その後、グループ討議がありました。自分の班では原発賛成と反対意見を出し合いました。原発事故後の今の現状、一度事故がおきてしまうとどうしようもない、廃棄燃料の処理ができない、原発無くせばそこで働く人の雇用はどうなるのか、火力発電の割合が増えれば、CO2の発生も多くなるなど、多くの意見がでて討議をしました。私は原発は発電所内だけではなく、周辺への影響もかなり大きく便利な物だけど、一度暴走すれば制御もできない燃料の処

理もできないハイリスクな物だと感じました。

2日目はフィールドワークで帰宅困難地域の立ち入り禁止フェンスの見学と津波被害にあった学校の見学に行きました。

帰宅困難地域は道に沿ってフェンスを立ててあるのですが、道の花壇にガイガーカウンタを置くと放射能

まで被曝されていました。

放射能は匂いもない、見えない、あるのに気づく事もできません。どこまで飛んでいるのか考えただけで怖いと思いました。

フィールドワーク後のグループ討議では、全員が「原発は無くさないといけなく、どうすれば無くせるか」の討議になり、まとめました。



の数値が上がり、危険を知らせる音が鳴り、安全基準の3倍近くの数値が出ていました。それだけの数値が出ている場所なのに、そこで生活している住民が居ることに驚きました。

衝撃を受けた計測数値

次に、津波被害のあった学校に行き津波の高さがどれだけ高かったか、震災当日はどんな状況だったかの説明を受けました。そのあと福島原発から西の山中に行ったのですが、そこは帰宅困難地域であり、「車から降りないで下さい」の看板が沢山ある道でした。山中は被曝汚染が酷く車の中でもガイガーカウンタの音が鳴りっぱなしで、途中でバスから降り、土の上を計測すると基準値の4~5倍の数値が出ていました。福島原発周辺だけでなく、少し離れた山

3日目は朝からグループ討議の結果発表を行い、全班が「原発は無くさないといけなく。東北だけではなく全国から声を上げていこう!」でまとめました。

私は、3日間の全国青年対策交流会議で、原発問題は沖縄辺野古基地問題と同じだと感じました。全国の人が沖縄に米軍基地を押し付け、問題も全国の問題ではなく、沖縄だけの問題として興味を持たない。福島原発問題も同様に、自分の居住地は安全だからと何故か信じて、最悪の事故が起きた福島原発から目を逸らし、無関心を決め込む。この現状を打開するためにも、大阪で現状を伝え、大阪からできる反対運動を広げていこうと思いました。

最後になりましたが、参加させていただきありがとうございました。



▲津波被害を受けた
浪江町うけど小学校